

# 鳥川ホタルの里 猪垣・荒神木めぐり

## 猪垣 (ししがき)

江戸時代、イノシシなどに田畑を荒らされ、年貢を納めるのに困った農民たちが、苦しみぬいた末に考えつき、作りあげたもの。猪垣は、領家片麻岩という固くて平らに割れやすい石で積まれている。旧額田町南部地域に多く見られ、猪垣の総延長は50kmにもおよぶ。高さは1.6m～2mほどで、田畑を取り囲むように築かれている。鳥川町内には、20か所の猪垣が現存しており、イノシシを落とすための猪穴も2ヶ所残っている。

## 荒神木 (こうじんぎ)

「荒神」は「かまど」の神であり、かつてどの家も「かまど」の近くに「内荒神」を祀っていた。一方、屋敷神にあたる「外荒神」は、御神体がヒノキやタブノキ、シイなどの木であることが多く、家の近くで大木となって残っている。ある木は一軒で、また、ある木は数軒の共同で祀っている。鳥川町内では11か所の荒神木が現存し、今でも木の根元に古いお札や雛人形などを納める風習がわずかながら残っている。

